

地域の子育てを応援するために ―主任児童委員として―

庄原市総領地区民生委員児童委員協議会 会長（主任児童委員） 迫江 茂幸

児童生徒の不登校の要因は、友人関係のこじれ、学習のつまずき、情緒や生活習慣の乱れ、家庭環境などさまざまあると考えられます。

そこで、主任児童委員は、該当児童生徒の学校・家庭・生活等での実態把握に努め、民生委員児童委員（以下児童委員）に支援の計画を提案し、共通理解のもと取り組みを進めました。

Plan「今できる支援は何か」を協議し、自治振興センターを会場に気軽におしゃべりや活動ができる居場所として「おしゃべりしましょ！」を計画しました。そして、該当の児童生徒と児童委員が顔見知りになる機会としました。その際、主任児童委員は、連絡調整役・つなぎ役・窓口となり、チーム（民児協委員）で支援にあたること、2か月に1回開催すること、毎回4人程度で対応することとしました。

Do「おしゃべりしましょ！」の会を開催するにあたり、活動内容を説明し、学校と情報共有する中で活動を進めました。内容は、おしゃべりタイム、工作、書道、軽スポーツ、クッキング等で、児童生徒の意見も聞きながら、活動が「楽しい」「またやりたい」と感じられるものにしました。また、参加した児童委員も一緒に楽しむよう心掛けました。

Check 参加した児童委員で活動の振り返りを行い、学校へ活動の様子を報告しました。参加した生徒からは、「友だちと話ができて嬉しかった」「ケーキ作り・お好み焼きづくりなどが楽しかった」と感想が聞けました。

Action 楽しく、和やかな雰囲気と活動を通して双方が笑顔になり、コミュニケーションが深まりました。現在、遅刻や欠席もほとんどなく、楽しい学校生活を送っていると聞いて、児童生徒の社会参加の一端となれたのではないかと感じています。

今後も、児童委員・主任児童委員が児童生徒の「身近なおとな」として寄り添い、地域の「子育て応援団」として支援をしていきたいと思います。

子ども達の輝く笑顔のために！

とっても
おいしそう



「おしゃべりしましょ！」の会で楽しく調理&工作♪

みんなの声



学びの道



「ん?!この道って何?!」私の前にす〜っと現れた道。「歩いてみて」と、誰かに背中を押された気がしました。

歩いてみたら日常の生活の中に、不自由を感じていても、声をあげずに暮らしている地域の人達が見えてきました。

高齢化による問題は、多種多様にて、沢山あります。しかし、目線を合わせて会話すると、必要な支援への「つなぎ役」だったら私にも出来るのではないかしら、と思うようになりました。

誰がひいたか分からぬ道を、もう少し歩くことにしたのです。



地域の人達に顔を覚えてもらうのには、笑顔が一番。声を出して笑うと、一緒に笑ってくれるんです。一緒に笑うと、問題解決の一步が見えてくるんです。寄り道もしながら、支え合いのこの道を、笑顔いっぱい出来るように歩いていきます。

学びの道を…

三原市第六区民生委員児童委員協議会 金丸 美江子



大切にしたいこと



民生委員を受けて、「今まで仕事をしてきた中で、地域のみなさんに大変お世話になりました。これからは少しでも皆さんのお役に立てばと思っています」と話してきました。このことは本当にそうだろうか考えるようになりました。自分が育った地域のことをほとんど知らないままに過ごしてきた私にとって、活動を通して他の地域の多くの民生委員のみなさんと知り合いになり、市役所や学校など多くの関係機関の方々ともつながるようになりました。何よりも常会や自治会のみなさんと親しく話ができるようになったことは大きな出来事でした。地域や他人のためにと考えていたことが、実は自分の人間関係を広げることにつながっていたように思います。

ある番組で、「あなたはみんなの幸せのために活動をしてきたと言っているが、誰か一人でも二人でも人を幸せにしたのか」と聞かれ、「自分は社会のためだと大きなことを言ってきたが、誰も幸せにできていなかった。独りよがりだった」と過去を反省している人が登場していました。

思うに、まず大切にしたいことは、大きなことは言わず、自分のまわりの人に幸せだと感じてもらうこと。「民生委員さんがおってくれちゃってよかった。ありがとう」と思ってもらえることだと思います。そんな活動ができる民生委員活動に携わっていることに感謝して、これからも地道に活動を続けていきたいと思っています。

庄原市民生委員児童委員協議会 副会長 友國 貴視

広島県

民児協だより



ヒゴタイ(ぼにばな)

(写真提供)一般社団法人庄原観光推進機構

column コラム

ヒゴタイー^{みつがいち}地域の子もたちと育んだ比和町三河内

庄原市には、農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定された「比和三河内の棚田」があります。

三河内の棚田には、「ぼにばなの咲く郷・三河内」のキャッチフレーズがあります。「ぼにばな」とは、お盆の時季、先祖のお墓へ手向ける草花を総称して「ぼにばな」と呼んでおり、比和町にはヒゴタイが自生していたので、ヒゴタイを加えて「ぼにばな」としていました。ヒゴタイは、絶滅危惧種とされており、庄原市では比和町の他にも東城町や高野町にも自生していますが、その中で、保護活動が実って、毎年多くの花をみせてくれるのが比和町三河内です。

ヒゴタイの保護活動は、廃校となった三河内小学校の郷土学習から始まります。

地域の高齢者から子どもたちは、ヒゴタイをはじめとする郷土の聴き取りを行い、三河内の宝を、子ども、先生と一緒に、守っていく活動を始めます。学校から始まった郷土学習の取り組みは地域を巻き込み、地域力を醸成し、地域の支え合いを強めていったのです。また、子どもたちはヒゴタイ学習を通じて、草花を大切にする心などを学んでいきます。このことは、人を大切にする心や、高齢者や先人の思いを大切にし、未来へつなぐことに通ずるものと考えます。

豊かな自然がある庄原市だからこそできる地域包括ケアシステムや、地域共生社会につながる取り組みが、今も脈々と続いています。

庄原市民生委員児童委員協議会 会長 田村 富夫